

近況報告書

私は、2012年7月より New York にある **Elmhurst Hospital** で小児科研修を開始した大宜見力と申します。レジデンス終了後は小児感染症のフェローシップを行い、将来的には日本の医療に少しでも貢献できればと考えております。

私にとって海外生活は初めての経験であり、英語によるコミュニケーションも含め、予期せぬことが多々ありますが、6歳と3歳の子供の学校も9月から始まり、少しずつ環境に慣れてきたところです。同期のほとんどは **IMG** です。全員英語は流暢で、海外経験のない私は毎日プレッシャーを感じていますが、素晴らしい上司や同期に恵まれたこと、比較的楽なローテーションである外来ベースで始まったこともあり、当初の予想よりも快適に過ごせております。実際の現場では、スペイン語しか話せない患者も多く、研修中にスペイン語も身に着けたいと考えていますが、英語力もまだ不十分なためスペイン語を勉強する余裕はまだありません。

小児科研修は、**ACGME** が勤務時間を厳しく管轄しているため、トータルの勤務時間そのものはそれほど長くなく、また1週間に1回は必ず24時間の休日が設けられており、サインアウト体制がしっかり行われているため日本よりオンオフがはっきりしております。しかし、勤務中は忙しく、週末の当直では食事がとれないこともしばしばあります。教育については **Conference** や **Lecture** が毎日あり、インターンがわからないことがあれば、いつでもレジデントに質問できる環境が整っており、文献も電子媒体で容易に入手できるなど効率的に勉強しやすい環境が整っていると感じます。研修医が主治医となる外来は3年間に渡って続きますが、全ての症例について指導医と **Discussion** を行います。これは医師の絶対数が足りない多くの日本の病院では構築が難しいシステムだと思います。全てのローテーションは4週毎に目まぐるしく替るため仕事に慣れきたころには次のローテーションに移動という形になりますが、その一方でより新鮮な気持ちで各ローテーションを回れる点は長所であると感じます。全てのことについて細かく **Documentation** が求められる点は、訴訟社会である米国医療の特徴かと思えます。

日本ではこの数年間小児感染症を中心に従事してきた私にとって一般小児科を体系的に学ぶのは久しぶりですが、今さらながら新しい発見があったり、忘れてしまっている事を再確認することができたりと有意義な時間を過ごせております。

New York 自体は、渡米前に想像していたよりも住みやすい街で、特に私たちが現在住んでいる **Forest Hills** は、治安もよく日本人も多いため英語を話せない家族にとっても大変恵まれた環境であると感じております。

これからもいろいろな試練に出会うと思いますが、しっかりと地に足を付けて実りある研修を送れるように頑張っていきたいと思えます。